

論理構造分析 by SB

筆者の主張①「私たちは社会のなかで、つねにある「何者か」である」としている。

↓ ②なぜか

①の根拠①=③ 私たちが生きる近代社会のなかに、何者でもない者は居場所をもたない。

解説④ 証明書によって身分証明できない「不審者」
・資格などによって能力を証明できない者

社会のシステムから弾き出される。
「欠陥」としての最低限の尊敬をも奪われる。

⑥ それに漏れたものはその「配責任」を誰の手にかたき社会的責任を投げ捨てられない

↓ なぜ

③④の根拠②=⑤⑥ 「過剰供給にともなう人材への関心が落ちている」

雇用者はまず、能力の証明に基づいて「人材」と採用
↑
終身雇用の枠組みが崩れた

↓ だから

⑦ 学校で自己を確立せよと教えられる。
・私たちが、何者かである、という社会を覆う圧力に応じて、自分の在り処を定め足掻く。

筆者の主張⑧ 近代社会のゆえに各人がつねに「何者か」であることを求められ、各人自身も何者かであることを証明を以て求められるのは、社会そのものとしてそこに生きる人間が自己の不安定さの裏返しでもある。

解説⑨ 近代社会を構成する国民国家は言語などの同一性を共有する「国民」を仮想するところに成り立つ人為的な構造物
・「国民」として国家を構成する人々は共同体に根を下ろしている

⑩ 「グローバリゼーション」とともに国民国家の境界が揺らぎ「国境」を超える移動が常態化しつつある。

↓ ため、

⑩ 私たちは、これまで以上に複合的な状況のおかげで自己を証明しなければならぬ。

筆者の主張 = ⑪ アイデンティティを追求し、それを証明しようとするのは、他者に対する暴力である。

↑ なぜ
根拠 = ⑪ アイデンティティを追求し、それを証明しようとするのは、個人と一定の対峙がある限り生かす「生 = 権力」を再生産する行為である。

解説 = ⑫ 国民国家の一国民であることは排他的な暴力によって成立している。
⑭ 国家への帰属と国民としてのアイデンティティを自己主張することは、その国を社会を実質的に排除し、築いているほかの国民を敵視し、排除しようとする暴力に陥る。

↓ なぜ
⑬ 「国民」のアイデンティティは、それを共有しない異質な者を排除することで獲得される。

+ 添加 = ⑮ ~ ⑰

ある国家の中の中心を占める人々によって「一般」な非排他的国民と見做された人々が、戦争において前線に立ち、敵に対して直接手を下すこともある。
↓ なぜ
自分も一国民であることを証明しようと必死に努力する。

筆者の主張 = ⑱ 暴力によって抑圧されているマイリリティが、あらゆる暴力として作用する抑圧と被抑圧の関係を問題化し、自分の集合的アイデンティティを語ることに努めるのである。

↳ 例) ⑳ ~ ㉑ = 戦略的本質主義 (※ アイデンティティ自体の暴力性を乗り越えるための「戦略」 = ㉑)

筆者の主張 = ②⑧。戦略的本質主義により抑圧と被抑圧の関係を明らかにし
みずから位置を表明しようとして求められるのは、
不変の本質としてのアイデンティティからの開放である。

11
自分が他者と共にこのように生きたいかを越境的に
選び取っていく自由の場として記を見出す。

②⑨。私たちは複合的な状況を生きている ④

↓ ため
自分の不純さ、雑種性を受け容れる必要がある。

筆者の主張 = ③⑤ 他者のためこの自分は他者との関係のなかで新たに見だし、
深く取り入れるところに存在する。

↓ なぜ

③⑤の根拠 = ③③ 私たちは複合的な状況の中で、複数の記を生きてい
る。これにより他者との新たな関係へ向けて自分を越境的
に選び取っていくことに関わっている。 174

③⑤ + ③⑥ = ③② 私たちの自己がアイデンティティは、永遠不変のものであり
たいものでもなければ、単一の本質に統合されたかたちで
確立されるべきものでもない。

筆者の主張 = ③⑦ 他者とのあいだで新たな自己を選び取っていくことが、
まず他者を肯定し、その呼びかけに回答することにも
つながってはならない。

↓ なぜ

③⑦の根拠 = ③⑧ 将来に思いまわす特定の自己像のために他者を手段
として用いないようにする。
・ 統合された単一のアイデンティティを定めるかに、自分自身
も屈しないようにする。

論理構造分析 by おおの

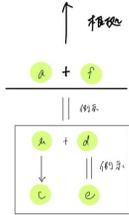
マイノリティは新たなアイデンティティを追求し、証明しようとし、そのことが他者への暴力となりうる



マイノリティがアイデンティティを求めるのを止めるわけにはいかない

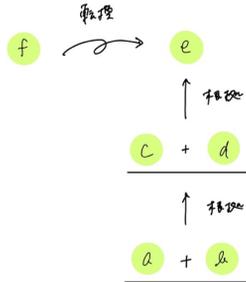


アイデンティティを語る事が他者への暴力に転化するのではなく、むしろ抑圧に苦しむ他者との連帯に結びつく可能性を追求すべき



例示
「戦略の本質主義」

- a アイデンティティを追求し証明しようとする事は、他者に対する暴力でありうる
- b 国民国家の一国民であること自体が、排他的な暴力で成りなっている = 「国民」というアイデンティティは、それを共有しない異質な物を排除して獲得される
- c 「国民」というアイデンティティを自己主張することは移民を排除する暴力となりうる
- d 「二級」ないし「非本来的」国民とされた人々は、「国民」というアイデンティティを証明するために努力するが、その努力は「国民」の他者に対する暴力となりうる
- e 戦争で最前線に立って、他国民を殺害する
- f アイデンティティを新たに追求し自己証明しようとする者の多くは、自分の所与のアイデンティティが傷つけられている者（=自分の集合的アイデンティティが、マジョリティによる排他的暴力で抑圧されているマイノリティである者）である



- a アイデンティティ自体が暴力であり、この暴力性は取り除かれなければならない
- b 優位なアイデンティティの奪回がアイデンティティの固有化に結びつくこと、アイデンティティの暴力性が繰り返される
- c 不変の本質としてのアイデンティティからの解放が必要
- d 他者との共生のしかたを越境的に（=固定化されたアイデンティティに縛られずに）選ぶ自由を持つことが必要
- e 現代の状況は複合的であり、そのもとで自分は純粋で単一なアイデンティティを体現しているわけではない（=雑種性をもっている）と受け容れるべき
- f 近代社会の構造のもと/国民国家の生=権力により、私たちは純粋で単一なアイデンティティがあると思われ、それを持つように強制されている